



建設コンサル

2020年9月期の業績は国内で防災・減災関連の受注が堅調に推移している。海外は新型コロナウイルスの影響で足踏み状態が続く中、経営成績としては営業利益が9期

オリエンタルコンサルタンツホールディングス

野崎 秀則社長

連続の増加を達成できた。21年9月期は連結ベースで売上高635億円、営業利益27億500万円を見込む。いずれも過去最高の業績を期待している。

復するだろう。

景気浮揚と激甚災害への備えを目的に、政府は国土強靱化関連で大規模な財政出動を予定している。引き続き国内の受注環境は良好と予想する。海外は国際協力機構（JICA）の政府開発援助（ODA）案件を含め、相手国政府から事業継続の要請を受けつつ、海外市場は緩やかに回復するだろう。

昨年12月に「DX（デジタルトランスフォーメーション）推進本部」を立ち上げた。事業モデルと業務マネジメントの変革を経営のキーワードに掲げ、経営や業務の効率化を

専門部署を核にDX加速

図る。人工知能（AI）やビッグデータを組み合わせ新たな街づくりを提案する場合にもDXは有効なツールだ。ポストコロナを見据え、防災や医療などをテーマにした街づくりを提案する。異業種連携も図り、地域の課題解決に貢献する。

経営の根幹を担う人材確保・育成については、多様な新卒や中途だけでなくIT人材の採用も積極的に進める。グループ会社で働く社員との交流も深めていく。